

日野市教育委員会 様

学 校 名 日野市立東光寺小学校
校 長 名 齊 藤 境 栄
(公印省略)

令和7年度教育課程について（届）

このことについて、日野市立学校の管理運営に関する規則に基づき下記のとおりお届けします。

記

1 教 育 目 標

(1) 学校の教育目標

本校の教育は、日本国憲法及び教育基本法に基づき、「自他を尊重しながら、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的・創造的に対応し、国際社会に生きる資質の育成」を目指し、次のように教育目標を設定する。

○明るい子ども（自他を大切にし、優しい心で接する子供；「豊かな人間性、人と関わる力」）

○考える子ども（自ら考え、判断して、よりよく学び、行動する子供；「問題を解決する力」）

◎強い子ども（健康・安全に心がけ、前向きな気持ちで生活する子供；「進んで実践する力」）

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

第4次日野市学校教育基本構想の具現化に向けて、「安心できる学校」プロジェクト（基本方針の重点は●印）を実施する。児童一人一人を輝かせて主体的な学びを育み、確かな学力と、自他を思いやり、社会の役に立とうとする豊かな人間性、社会性を培う教育を推進する。また、家庭や地域に信頼され、誇りに思われる学校づくりを推進するとともに、児童自らが誇りに思える学校づくりを目指す。

ア 明るい子ども「豊かな人間性、人と関わる力」を育成するために

●命あるもの全ての“いのち”を守り、育むため、道德教育・人権教育を推進する。

●児童相互の豊かな人間関係づくりに努め、いじめの未然防止・早期発見・早期対応のために、学校いじめ対策委員会による組織的対応の充実に努め、児童発の取組を積極的に推進する。

●一人一人の児童が生かされる受容的、共感的な雰囲気の学級づくりを進め、学びに向かう集団をつくる。

イ 考える子ども「問題を解決する力」を育成するために

●児童全員の考えが深まる授業の創造を目指し、授業改善を基に思考力・判断力・表現力等の育成を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。

・全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するため、更なるICTの活用、特に一人1台学習者用端末の使用を推進する。

・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のため、生活科及び総合的な学習の時間のカリキュラムを基に各教科等の関連する内容の配列を考えたカリキュラム・マネジメントを推進する。

・SDGsカレンダーに基づき授業を実践し、地域に愛着をもち、地域に貢献する意欲や実践力を高める。

ウ 強い子ども「進んで実践する力」を育成するために

●学級活動、学校行事等、自主的・実践的な集団活動を通して、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成する中で、目標に向かって前向きな気持ちで生活し、努力する力を育てる。

●規範意識の育成、基本的な生活習慣・授業規律を確立するため、『東光寺スタンダード』の徹底を図る。

・健やかな心と体を育成するため、体力向上、健康教育や食育指導等を推進する。

2 指導の重点

(1) 各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動

ア 各教科

- ・児童自ら課題を見付け、対話を通して解決の方法を考える「個別最適な学び」と、学び合い、教え合いながら課題を解決する「協働的な学び」となるよう、指導内容・方法・体制を工夫・改善する。思考力・判断力・表現力の育成を重視した授業の展開を計画、実施する。
- ・一人1台学習者用端末の効果的な活用を推進する。「GIGA ワークブックとうきょう」等を活用した情報モラル、活用の学びの充実もあわせて行う。
- ・算数科においては、学習の習熟度や個の課題に応じた習熟度別学習指導を推進する。『めあて』と『まとめ』を連動させ、めあて達成のための学習活動を計画し、実施する。「リソースルーム」との連動を図る。
- ・朝読書、年2回の読書旬間、保護者による読み聞かせ、学校図書館の活用、学校図書館司書や図書支援員、学校図書館システムの機能の有効活用と中央図書館との連携等により、本の楽しさを味わい、読書習慣を身に付けさせ不読率0%を目指す。学習センター、情報センターとしての機能を充実させ、情報活用能力を育み、各教科での探究活動を推進する。
- ・運動の楽しさや体を動かす心地よさを実感できる体育授業を工夫し、実施する。「長縄週間」「ジョギング週間」など、運動習慣を定着させるとともに、生涯にわたって運動やスポーツに親しむ態度を養う取り組みを実施する。
- ・外国語においては、ALT を活用し、「読むこと」「書くこと」を加えたコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。また、パフォーマンステスト等の指導と評価の一体化に取り組み、その結果に基づいた授業改革を実施する。
- ・特別支援教室、自閉症・情緒障害通級指導学級（つぐみ学級）、日野市発達・教育支援センター（エール）、子ども家庭支援センター等と連携を図り、学級における個に応じた指導・合理的配慮を行う。
- ・日野市内の様々な企業や協会、施設と連携した学習機会を充実させる。地域と結び付きながら活動を展開し、本物に触れる機会をもつことで、子供たちにわくわくの学び合いを提供する。
- ・組織的・計画的に学習過程や成果を評価し、学習評価の「妥当性・信頼性」を高め、学習意欲の向上と学力の定着を図る。評価の方法や基準を保護者会資料として配布し、情報提供を行う。

イ 特別の教科 道徳

- ・自他ともに大切にする人権教育の視点を基に、「生命の尊さ」を本校の重点内容項目とした道徳教育を道徳科の授業を要として行い、生命尊重の心を育成する。
- ・自ら考えを深めたり、整理したりすることができるようにするための書く活動、ペアでの対話やグループによる話し合い、一人1台学習者用端末の機能を活用した意見交換など「考える道徳」「議論する道徳」を実践する。

ウ 外国語活動

- ・学級担任が中心となりALTと協働しながら、外国語に慣れ親しむこと、日本語と英語の音声の違いに気付くなど「聞くこと」「話すこと」を通してコミュニケーションを図る素地を育成する。

エ 総合的な学習の時間

- ・大坂上中学校と連携して作成した年間指導計画に基づき小・中7年間を見通した探究的な活動を展開する。
- ・地域との関わりをより意識できるように、総合的な学習の時間のテーマを「地域と自分」とし、地域で学ぶ活動、自分たちが主体となって考え発信する活動、地域と共に行う活動、地域に貢献する活動を意図的、計画的に実施する。
- ・未来都市日野市の取組を活用し、SDGs カレンダーを基にした教科横断的な指導で「探究課題の設定」及び「探究過程」を充実させた授業づくりを進める。
- ・郷土教育を推進し、「ふるさと日野」を知って、郷土・地域に愛着をもち、郷土・地域に貢献する意欲や実践力を高める。

オ 特別活動

- ・全校で統一した指導を行うために「東光寺小学校版学級活動ハンドブック」を活用する。
- ・学級活動(1)では提案理由を明確にして学級会を行うために、計画委員会の指導を充実させる。
- ・学級活動(2)(3)は学年の実態に応じた題材を年間指導計画に位置付け、ティーム・ティーチングやゲスト・ティーチャー等を効果的に活用して、児童のよりよい意思決定につなげる。
- ・「キャリア・パスポート」を効果的に活用し、児童が自らの成長を振り返りながら、なりたい自分を目指す。
- ・各教室に学級活動コーナーや係活動コーナー、学級のあゆみコーナーを設置し、学級の所属意識を高める。
1階廊下には議題掲示板、クラブ活動・児童会活動掲示板などを設置し、児童の主体的な活動を促す。
- ・異学年交流活動では、縦割り班の実践により、学級活動で培った力を異学年集団でも発揮できるようにする。

(2) 生活指導・進路指導

ア 生活指導

- ・学校のきまり等、『東光寺スタンダード』に基づいた一貫した指導を行い、徹底させる。
- ・「学校いじめ防止基本方針」に基づき、自他の生命を大切にすることを徹底する。また、日頃から児童の様子を注意深く見とるとともに、年3回のふれあい月間でのアンケートや個別相談を実施し、児童の悩みや不安を解消するよう児童と教師の信頼関係を築く。家庭状況を把握するために家庭訪問等を実施する。
- ・不登校児童については担任だけでなく、スクールカウンセラーを含めた校内支援委員会を定期的に開催し一人一人の状況に応じた支援・指導を組織的・継続的に行う。わかば教室、発達・教育支援センター（エール）、子ども家庭支援センター、スクールソーシャルワーカー、学童クラブ、児童館、ほっとも等、関係諸機関との連携を密にし、学びを応援できる態勢を作る。
- ・教育相談日やスクールカウンセラーなどによる教育相談機能を充実し、児童や保護者の支援体制を整える。
- ・コミュニティ・スクールとして、年に8回学校運営協議会を開催する中で学校・地域の連携をさらに深め、児童の健全育成に取り組み、地域と共に学校を創る。
- ・予想される災害等を想定した避難訓練や安全指導、夏季休業前のSOSの出し方に関する教育の実施により、自分の命は自分で守るという態度や能力を身に付けさせる。
- ・文部科学省と内閣府が連携し作成した「生命（いのち）の安全教育」等の教材を活用し、児童の発達段階に応じた“いのち”の安全教育を実施すると共に、性暴力被害防止の取組を学校教育活動全体で実施する。

イ 進路指導

- ・キャリア・パスポートを使って、児童自身に学習、学校生活の多様な集団活動、家庭生活を振り返らせる。対話や発表・掲示等により、児童の自尊感情・自己有用感の醸成や自己の変容の自覚につなげる。
- ・大坂上中学校との連携を図り、9年間の学習のつながりを意識した指導、児童・生徒の育成観の共有、円滑な接続を目指してのキャリア・パスポート等を活用した児童理解、情報交換を密に行い、児童が希望をもって進学できる体制を作る。
- ・地域人材や社会人講師を招いた学習、地域の公共施設や可燃ごみ処理施設などの見学を通して児童が将来の生活や社会、職業等を意識し、自分らしい生き方を実現できることを目指す。

(3) 特色ある教育活動

- ・「安心・安全な学校」を目指す「安心できる学校」プロジェクトを実施し、「安心・安全な学校」を目指す。そのために、児童が自尊感情、自己肯定感をもち、自他の生命を大切にすることができるよう、学校の全教育活動を通して、“いのち”を大切にすることを推進する。特に全校児童による一人一鉢栽培を通して生命の力、共に生きていることを感じ、“いのち”について考えさせる。
- ・地域と積極的に関わり、自分たちが主体となって考え発信する活動、地域と共に行う活動、地域に貢献する活動など、双方向の活動を行う。特に自分たちに何ができるかを考え、活動する機会をもたせ、地域貢献の意欲や実践力を高める。
- ・地域の豊かな農業環境・人材を生かした食育を推進する。梨園での見学作業体験、タマネギ・東光寺大根作り、東光寺大根を使ったたくわん作り、稲作など、体験として学ぶとともに、自ら課題を設定して探究する活動を通して食物を大切にし、それらの生産に関わる方々へ感謝する心を育む。
- ・『ステップ教室』拠点校、『つぐみ学級』の条件を生かし、担当による特別支援教育の視点による授業の工夫についての研修、教材の紹介等を計画的に実施し、指導に生かすとともに指導力の向上につなげる。
- ・全学年一部の教科で授業交換を実施し、自分の学級だけでなく他の学級でも授業をすることで、学年の全児童の指導に携わる。また、副担任制度を実施し、朝・帰りの会や給食指導、保護者会等に参加するなど、担任と一緒に担当学年の児童の育成に携わる。
- ・教育活動全体及び「特別の教科 道徳」の時間の学習を通して道徳的判断力、心情、実践意欲と態度の育成を図り、いのちの大切さの意識を高めるとともに、いじめ防止を徹底し、情報モラルを身に付けさせる。
- ・学校 2020 レガシーの取組として、外部講師の招聘による空手道体験、和食器で和食体験等の文化的な体験、車いす・ブラインドウォーク体験等の取組を設定し、日本人としての自覚と誇りの育成、障害者理解、豊かな国際感覚の醸成、ボランティアマインドの涵養を図る。
- ・第一学年においては、「すくすくタイム（スタートカリキュラム）」で、小学校での学習、生活に円滑に接続できるように入学前から幼保小の連携を深め、安心して小学校生活を送ることができるようにする。
- ・プログラミング教育では、プログラミング的思考を身に付ける学習活動を教科等の中で位置付け、論理的思考力や問題解決能力の育成を図る。
- ・児童が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、特別活動や体育科（保健）の時間に栄養士が担任と一緒に授業を行う。保護者には給食だよりやホームページの本日の給食、日野市学校給食会や幼小教研食育部で作成したお便り等を活用し、食に対する意識を高め、食育を推進する。
- ・夏季休業中に夏季学習会（サマースクール）を実施し、算数の基礎的な内容の理解と定着を図る。
- ・地域行事等へ教員が積極的に関わり、児童や保護者と協働し、地域とともにあろうとする姿勢を見せる。
- ・学校閉庁日の設定や水曜日の定時退勤を促すなど、ライフワーク・バランスを意識して取り組むことにより、教職員の心身ともに健康で、質の高い教育活動を行う。